

【原 著】

高度な専門性と実践的な指導を有する教師の育成プログラム  
「教師力養成講座」の開発（5）  
—実践的指導力を有する教師の育成—

武藤 幹夫 小川 潔 小林 清太郎

Development of “A Training Course to Cultivate the Abilities Required for Teachers (5)  
a Program to Bring on Teachers with a High Degree of Specialization and Practical Leadership  
– To Cultivate the Practical Leadership Required for Teachers –

Mikio BUTO, Kiyoshi OGAWA, Seitaro KOBAYASHI

2014

岡山大学教師教育開発センター紀要 第4号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education  
and Development, Okayama University, Vol.4, March 2014

原 著

## 高度な専門性と実践的な指導力を有する教師の育成プログラム

## 「教師力養成講座」の開発 (5)

## — 実践的指導力を有する教師の育成 —

武藤 幹夫<sup>\*1</sup> 小川 潔<sup>\*1</sup> 小林 清太郎<sup>\*1</sup>

「教師力養成講座」の実施は、本年度で5年目を迎えた。採用試験に合格した学生は、昨今の教育現場で課題となっている学級崩壊、いじめ、不登校などの情報を耳にしたり、自分自身の指導力や経験の不足を自覚したりして、教壇に立つことへの不安感を強めている。一方、時代の流れの中で、教育現場や社会からは、即戦力としての新採用教員が求められている。この講座は、学校現場で実践されている前向きな取り組みをしっかりと伝えることで、学生の不安感を軽減し実践的指導力を高めることをねらいとして取り組んできた。少しずつ改善を図りながら歩んできた平成25年度の本講座の内容を、受講者数や受講者のアンケートを手がかりにして振り返り、第6回講座までの内容を報告する。

キーワード：教師力、実践的指導力、教育課題、現場の教員、学生同士の討論

※1 岡山大学教師教育開発センター

## I. はじめに

現在、公立小中学校に新採用として赴任する教員数は増加傾向にあり、平成25年度には小学校13,753人、中学校8,141人<文部科学省初等中等教育局財務課調べ>である。また、採用数に占める新規学卒者の比率も、小学校45.5%、中学校36.5%<学校教員統計調査 文部科学省調べ>となっている。現在の教員年齢別構成から判断すると、この傾向は今後も続く。こうした状況の中で、即戦力となる教員育成への要望は一層高まっている。

一方、教員採用試験に合格して教壇に立つことが決まった学生は、4月から現場で勤務することへの不安感をもっている。その不安感は、教育実習やインターンシップ等での経験から感じた自分自身の指導の未熟さの自覚から生まれてくることもある。また、報道を通して知る学校現場での学級崩壊やいじめ・不登校などの課題解決への方策の複雑さや不透明さから生まれてくることもある。

そうした不安感をもつ学生には、実践的指導力を高め、教壇に立つ喜びや自分なりの意欲と自信をもって卒業してもらいたい。そのために、平成25年度も、支援の一つとして「教師力養成講座」の開発に引き

続き取り組むこととした。

## 全体構想

過去4年間の報告(岡山大学教師教育開発センター紀要, 第2号(2012)PP.144-153 高度な専門性と実践的な指導力を有する教師の育成プログラム「教師力養成講座」の開発(3), 第3号(2013)PP.125-132 高度な専門性と実践的な指導力を有する教師の育成プログラム「教師力養成講座」の開発(4))の取り組みを継承して、全体構想(図1)を確認し、仮説を設定した。

## &lt;仮説&gt;

現場の教師である講師から直面している教育問題の現状や現在の取り組みの実態についての基調提案をしていただき、その中で学生同士「自分ならどうするか」という視点で討論を重ねると、課題の本質をつかむとともに、望ましい教師としてのあるべき姿、望ましい教師としての指導方法について意識改革をすると同時に、教師としての自覚や使命感を高めることができ、『教師力』の育成に役立つ。

### 新しい試み

平成 25 年度の「教師力養成講座」を実施するにあたり、昨年度まで実施して見えてきた課題をもとに、幾つかの改善を進めた。

#### ○学生の参加しやすさ

講座のよさがわかっていても、参加につなげるためには、参加しやすい日程設定が求められる。そこで、本年度は、原則として、4 年生全員が出席する「教職実践演習」が行われる水曜日に講座を設定することとした。このことにより、教育学部の 4 年生の参加がしやすい状況をつくった。

#### ○テーマの設定

取り上げるテーマとして、学生が学校現場に対してもっている課題・不安に関わるものを取り上げた。前半の 4 回では、学生が具体的な対応に不安を強く抱いている「体罰」「いじめ・不登校」「保護者のクレーム」を取り上げ、後半の 3 回では、4 月から教壇に立つ学生が継続的に取り組む「学級づくり」「授業づくり」「生徒指導」を取り上げた。

#### ○講師の選定

講師には、校長と共に、現場の実践で成果を上げている現職教員や教育委員会職員をお願いし、現場で実践している具体的な指導が伝わるようにした。

#### ○グループ討議の充実

学生同士のグループ討議を効果的にするために、必要に応じて基調提案の中にも討議を柔軟に設定し、講師と共に考える形の講話も実施した。

#### ○柔軟な運営

2 回連続して継続したテーマで行う講座や、「学級づくり」「授業づくり」「生徒指導」のような、学生にとっての意義や大切さが意識できているテーマの講座では、「大学教員によるテーマ内容の意義についての講話」は省略した。その時間を、学生同士のグループ討議の時間に当てた。

表 1 講座の基本的な運営スケジュール

・ 開会（挨拶、講師紹介）	10分
・ 大学教員によるテーマ内容の 意義についての講話	15分
・ 講師による基調提案 休憩（5分）	40分
・ グループ討議	20分
・ 討議内容の発表・共有	15分
・ 講師と教育相談室担当によるまとめ	25分
・ 各自のまとめ（感想）	5分

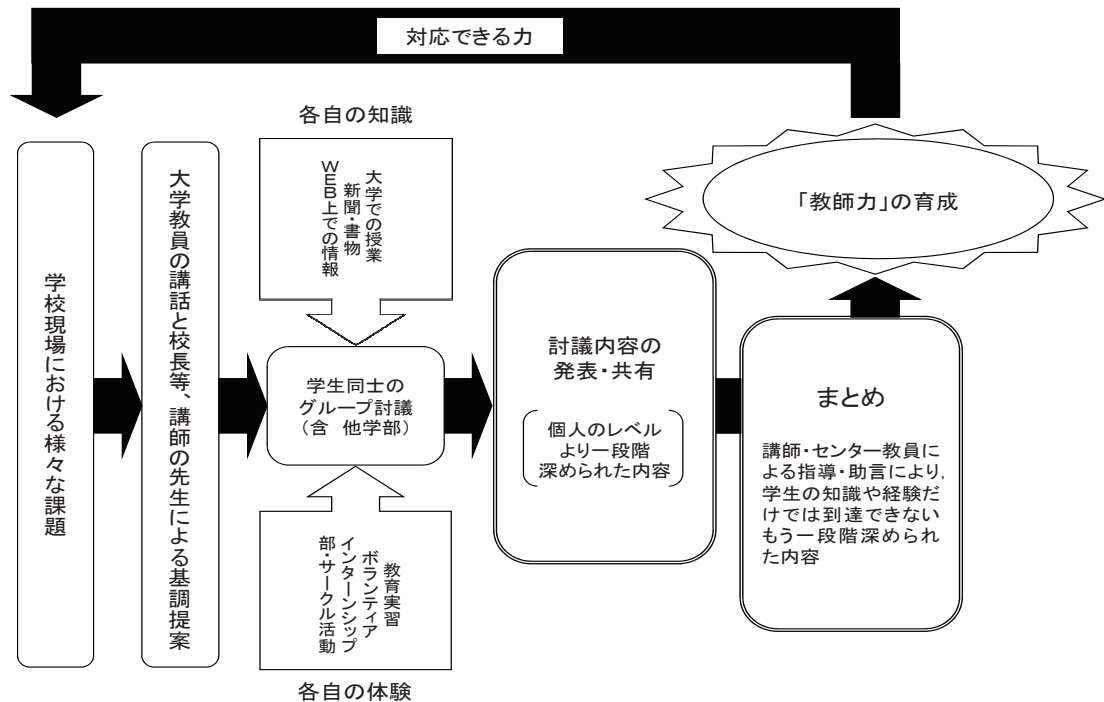


図 1 全体構想図

## Ⅱ 本年度の「教師力養成講座」のテーマ

本年度のテーマは、学生が現場に対してもってる課題・不安に関わるものを取り上げた。前半には、学生が具体的な対応に不安を強く抱いているもの、後半には、4月から教壇に立つ学生が継続的に取り組むものを取り上げ、教育現場の実践で大きな成果上げている現職教員や教育委員会職員に講師を依頼した。

実施日	回	テーマ	講師
2013年 5月 22日	第1回	「体罰」を考える	倉敷市教育委員会
2013年 6月 26日	第2回	「いじめ・不登校」を考える「原因や背景」	岡山市立中学校教諭
2013年 7月 10日	第3回	「いじめ・不登校」を考える「対応と未然防止」	岡山市立中学校教諭
2013年 8月 6日	第4回	「保護者のクレーム」を考える	岡山市教育委員会
2013年 12月 4日	第5回	「子どもにとって魅力のある学級」をどう創るか	赤磐市立小学校指導教諭
2013年 12月 11日	第6回	「子どもにとって魅力のある授業」をどう創るか	岡山大学教育学部附属小学校教諭
2014年 1月 15日	第7回	「子どもの問題行動」にどう対応したらよいか	岡山市教育委員会

2012年度のテーマは、学生たちの直面している課題と教育界の新しい取り組みについて取り上げ、各テーマについて、実践を積んでおられる方に講師を依頼した。

実施日	回	テーマ	講師
2012年 5月 30日	第1回	「子どもの特性を理解した生徒指導」	岡山市立中学校教頭
2012年 6月 13日	第2回	「NIEの取り組み」	岡山市立小学校教諭
2012年 10月 31日	第3回	「外国語活動」	岡山市立小学校教諭
2012年 11月 28日	第4回	「学級づくり」	岡山市立中学校教諭
2013年 1月 16日	第5回	「学級びらき」	岡山市立小学校長

2011年度は、これまでの趣旨に沿った内容として、学習指導要領の主な改善事項と、直面している課題について取り上げ、県下でもトップレベルの実践力のある講師を選んだ。

実施日	回	テーマ	講師
2011年 5月 18日	第1回	「授業で学校を変える」	岡山市立中学校長
2011年 6月 29日	第2回	「伝統文化と武道」	岡山市立中学校教諭
2011年 7月 13日	第3回	「キャリア教育」	岡山県立高等学校教諭
2011年 10月 5日	第4回	「国語教育における協同学習」	岡山市立中学校教諭
2011年 11月 2日	第5回	「保護者・地域との連携」	岡山市立小学校長
2012年 1月 18日	第6回	「教師力をつけよう」	岡山市立中学校長

2010年度は、文部科学省による学習指導要領改訂の中で、特に改善事項として強調されているテーマを取り上げ、その道での第一人者に講師を依頼した。

実施日	回	テーマ	講師
2010年 5月 19日	第1回	「学校における食育推進」	岡山市立小学校長
2010年 6月 16日	第2回	「伝え合う力の育成」	岡山市立小学校長
2010年 7月 28日	第3回	「情報教育」	岡山市立中学校長
2010年 10月 27日	第4回	「外国語教育」	岡山市立中学校教諭
2010年 12月 1日	第5回	「理数教育の充実」	岡山市立小学校長
2011年 1月 12日	第6回	「生徒指導」	教師教育開発センター准教授

2009年度は、直面している課題について、県下でもリーダー的な小・中学校の校長先生に講師を依頼した。

※ 岡山大学教育実践総合センター

実施日	回	テーマ	講師
2009年 5月 27日	第1回	「子どもたちの生活とケータイの問題」	岡山市立中学校長
2009年 6月 24日	第2回	「発達障害など課題を抱えた子どもとどうかかわるか」	岡山市立小学校長
2009年 7月 8日	第3回	「いじめ・不登校の問題をどう考えるか」	岡山市立中学校長
2009年 10月 14日	第4回	「学校における「評価」について」	岡山市立中学校長
2009年 11月 25日	第5回	「道徳教育について」	岡山市立小学校長
2010年 1月 27日	第6回	「学校力の向上について」	岡山市立中学校長

Ⅲ 受講生の満足度と感想

表3 講座受講者のアンケート結果

	2013年度						2013 合計	2012 合計	2011 合計	2010 合計	2009 合計	
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)						
参加人数	119	55	68	72	30	48	392	118	179	282	274	
①基調提案	平均	4.95	4.87	4.79	4.90	4.93	4.92	4.89	4.77	4.95	4.85	4.86
	SD	0.26	0.34	0.62	0.30	0.25	0.28	0.37	0.54	0.21	0.42	0.41
②話し合い	平均	4.53	4.40	4.49	4.54	4.47	4.30	4.47	4.25	4.40	4.47	4.46
	SD	0.67	0.53	0.70	0.55	0.50	0.77	0.64	0.39	0.65	0.67	0.57
③発言	平均	4.03	4.17	4.18	4.07	4.10	4.11	4.10	3.94	3.92	4.11	4.01
	SD	0.80	0.54	0.84	0.70	0.75	0.83	0.76	0.64	0.78	0.74	0.78
④長さ	平均	4.33	4.43	4.45	4.46	4.13	4.09	4.34	4.25	4.07	4.30	4.16
	SD	0.84	0.92	0.98	0.82	1.18	0.96	0.93	1.11	1.10	0.88	0.88
⑤まとめ	平均	4.92	4.90	4.84	4.86	4.93	4.87	4.89	4.92	4.91	4.89	4.80
	SD	0.36	0.29	0.36	0.39	0.36	0.33	0.36	0.08	0.35	0.35	0.51
⑥考えたこと	平均	4.94	4.96	4.94	4.97	4.97	4.98	4.96	4.92	4.97	4.93	4.95
	SD	0.24	0.19	0.24	0.17	0.18	0.14	0.21	0.08	0.17	0.25	0.21
⑦次回講座	平均	4.80	4.83	4.78	4.54	4.87	4.67	4.74	4.68	4.84	4.89	4.83
	SD	0.57	0.38	0.42	0.96	0.72	0.69	0.66	0.66	0.63	0.48	0.61

図2 年度ごとの平均値・標準偏差

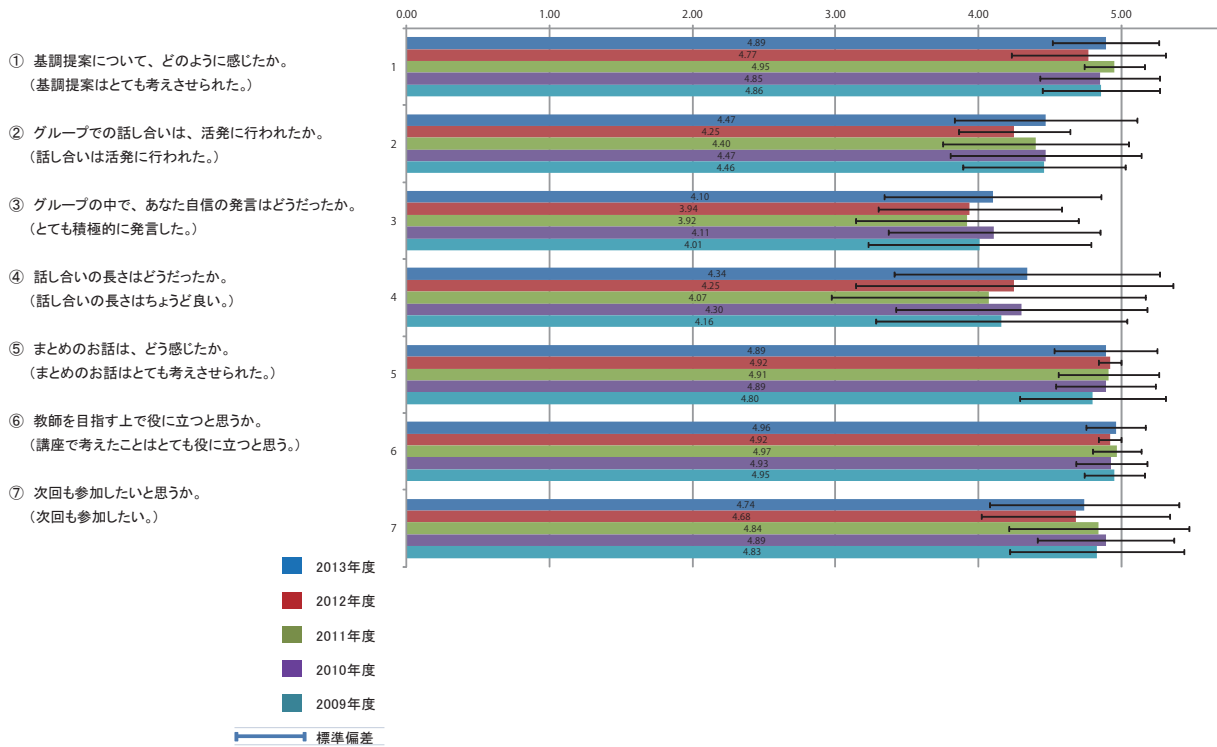


表3は、2013年度の講座で実施したアンケート結果の平均値と標準偏差、各年度全体の平均値と標準偏差である。図2は、過去5年間の年度全体の平均値と標準偏差をグラフに表したものである。この講座のねらいに深く関わっている「今回の講座で考えたことは、あなたが教師を目指す上で役に立つと思いますか」という設問に対する回答平均値が4.92～4.97の範囲で推移していることがわかる。本年度については、グループ討議に関わる項目で改善が見られた。

アンケート記述をもとに、テーマの設定をしたりグループ討議の仕方を工夫したりすることが、講座の充実につながったものと考えられる。

この講座は、学生のニーズを的確にとらえ、質の高い内容を提供することができたと考えられる。

学生の感想

受講者のアンケートに記述された感想や意見を大きく分類すると、「講座内容への共感や発見」「講座

の運営や進め方への意見や感想」「自分が教壇に立つことへの意欲や思い」に分けることができる。講座のさらなる改善への要望はあるが、ほとんどが肯定的な意見である。

各講座のアンケートに書かれた学生の感想や意見の中から、一部を紹介したい。なお、①②③④⑤⑥は、本年度の何回目の講座であるのかを示している。また、「ありがとうございました」等の言葉は省略し、誤字等の最小限の校正をして載せている。

#### [内容への共感や発見]

①体罰の問題を表面的に暴力 OK/NG という次元であつかうのではなく、「みんな体罰はいけないと知っていて、なぜまだ起こっているのか」という背景を多面的に考えるきっかけになりました。今日の講座で終わりではなく、この先も自分で考えを深めていきたいと思えます。

①体罰についての問題はニュースなどでよく取り上げられていますが、今回の講義をうけて、教員としての目線から体罰について考えることができました。体罰問題を考える上で、教育のあり方や、自分が教員としてどのように子どもと関わっていききたいか等について深く考えることができました。体罰は禁止されているにもかかわらず、繰り返されてしまっている現状があり、体罰が起こる背景には何があるのかを考えることが大切だと思いました。また、体罰によらない指導のあり方についてのグループワークでは、自分自身の考えをまとめるとともに、他の人のさまざまな意見、考えを聞くことができ、とても勉強になりました。

②いじめや不登校の原因や背景について考えることができました。表面的なことではなく、その問題の根底に何があるのかをしっかりとらえることが大切だと思いました。教師になったら、意思をもって向き合っていきたいと思えます。

②中学校実習に行ったあとで、自分の視点が少し広がったことに気付きました。改めて何でも経験することの大切さを感じました。学校がすべての原因ではない。しかし、学校ですべきことできることは何か。考えていきたいです。

②「学校が全て責任をもつわけではないのだから、いじめや不登校を隠す必要はない」という言葉にはとさせられました。世間の目を気にして、いじめがあるのは悪いことだ、マイナスイメージだということばかりにとらわれがちですが、問題解決の

ために本当に必要なことは何で、どう動くべきかということの方がよっぽど大切だということに気付かされ、勉強になりました。

③いじめの実態やその対応策について知ることができ、私自身も将来教員として、いじめを防ぐためにどのような取り組みをしていくべきかについて考えさせられました。違う学科の人と意見交換をすることで、新たな視点で、いじめ問題について考えることができて良かったです。

③どの学校・学級でもいじめは起こりうることで、いじめの要因をはらんでいる中で、どのように未然に防止して、事後対応を行うのか、グループ間の話し合いで考えを深めることができました。“グリーゼン”ということに対して、不安がありましたが、サインを見逃さない感性、いじめをゆるさない態度をもって児童と接したいです。

④保護者のクレームはとても面倒くさいものだと思っていたが、子どもの幸せを願うという点で共通点があり、子どもとの関係づくりが一番大切なのだとわかって良かった。自分自身の成長にもつながるクレームは、きちんと対応すべきだと思った。

④保護者のクレームと聞くと、つい戦闘態勢に入りそうになりますが、今回のお話を聞いて、保護者も地域の方も教師も「子どもの幸せを考えている」という点では同じなんだなとわかりました。

④保護者のクレームは学校への期待の裏返しというコトバが印象に残りました。丁寧な対応、事実確認で子ども、保護者の方々にとって安心できる学校づくりをしていく大切さを実感できました。

⑤先生のお話を聞いてとても勉強になりました。1人1人の子どものよさを大切に、みんなと学校生活がおくれることの幸せを感じさせてあげられるような学級経営をしたいです。たくさん心打たれるお話をきくことができました。

⑤小学校のお話を中心でしたが、自分が高校で教壇に立つときにも、大いに参考になると思いました。応用したりヒントとしたりして参考にさせていただきます。初めての参加でしたが、参加して本当に良かったと思えます。

⑤「教員と生徒のつながりや信頼関係が大切」とわかっている、具体的にどうするかについてなかなか考えてこなかったのととても勉強になりました。\*\*先生のような、生徒、児童、一人一人を大切に、良いところを伸ばしてあげられる教師を目指し、自分だったらどうするか（\*\*先生にできることと



自分にできることはもちろん違うので…) についてもっと深く考えておきたいと思いました。

- ⑥ 授業を通して学級経営をしていくという考え方が自分にはとても新鮮でした。子どもの「わかった！、楽しい！」を追究していけるように授業を考えていきたいと思います。
- ⑥ 「国語って難しい、どんな風にすればいいのかわからない」という気持ちがありましたが、①授業でめざす期待する子どもの姿から②どんなことに着目させるかを考えれば、めあてまで考えることができるとわかりました。これは国語に限らず、他教科でも言えることだと思います。ぜひ、授業づくりを大切にしていきたいです。
- ⑥ 魅力ある授業は頭で考えるだけでは作れない、また、教師が面白いと実際に感得しなければ子どもたちの視点に立てない、ということを痛感させられました。

#### [講座の進め方・雰囲気]

- ① 初めての講座参加だったが、気合いに満ちあふれた教室の雰囲気に圧倒された。参加してよかった。
- ① 体罰という大変タイムリーなテーマについて話し合うことができてよかったです。また、グループで討論することで自己の考えをさらに深めることや、発表の仕方についても改めて学ぶことができた。
- ① 体罰については、今注目されているので、興味があった。体罰については文科省に出ているものに目を通し、ある程度理解しているつもりであったが、実際に子どもにどのように指導や関わりを持っていくのかという難しさをあらためて感じた。もっと深くグループで討論したかったです。もう少し時間があっても良かったし、10人の人数は多すぎたと感じました。5~6人にして欲しいです。
- ② いじめや不登校の背景・原因を考えるのは難しかったです。たくさんの原因が考えられ、それは結局どうつながっているのか、何が根本であるのか考えるのは難しかったですですが、グループで話しあうことで様々な考えを聞くことができよかったです。\*\*先生から最後のお話をお聞きし、教師は何かできるのか、次回は考えていきたいです。
- ③ いじめや不登校への指導や支援について、今まで何度も考えてきましたが、今日、参加したことによって、さらに深めたり、新たな発見をしたりすることができました。とくに、中、高、養護の先生からの

視点を知ることができて良かったです。

- ④ 具体的な事例について考える機会となつて、とてもよかったです。実際に現場に出たときに、覚えていたらすごく大切だと思うことがたくさんあつて勉強になりました。
- ⑤ 初めての参加でしたが、現場の先生の熱意や子どもへの愛情を身近で感じることができてよかったです。話し合いも、先輩が進めてくださって安心しました。
- ⑥ 「教材にまずは自分自身が魅力を感じる」という言葉がすごく印象的でした。実際の教材を通して、またグループ協議を通して教材の面白さを実際に感じることができました。
- ⑥ 今回初めて講座に参加させていただきました。今までこのような講座があるということにあまり着目していなかったために、参加していなかったが、今回参加してみて、教師になるためにとっても役に立つお話を聞けることがわかり、次回も参加したいと思いました。今まで積極的に参加してこなかったことに後悔するほどに、この講座は、ためになるものだと感じました。

#### [教壇へ立つことの意欲や思い]

- ① 体罰を「評論」ではなく「教育」の視点から考えることができるともよかったです。現場で様々な場面に遭遇したときに、ぶつかり合い、失敗しながら、子どもと共に答えを探していくのが大切であると感じました。\*先生の人柄にも魅了されました。
- ② いじめや不登校について考えるのはとても難しかったです。しかし、ここまで深く考えることによつて、たくさんのことを学ぶことができた。今日学んだ原因や背景をしっかりと整理して、自信や責任をもって子どもの前に立てるようにしていきたいと思います。
- ③ 具体的対応を考えるのがとても難しかったですが、グループの中でも全体の中でもたくさんの視点の意見が出てとても勉強になりました。まとめるのがとても大変でしたが、それだけ対応にはたくさんの方法があることだと気づいて、まず私たちがいじめに真剣にむきあつて対応していきたいです。
- ③ いじめや不登校の問題は、自分が教員になる上で1番心配している事柄だったので、今回の講座を通して自分の考えを表出すると共に、他の人の意見や視点を学ぶことができたのはとても有意義でした。自覚して、アンテナをはって、気づける教

師になりたい、と改めて思いました。

- ④「保護者からのクレーム＝よくないもの」というマイナスのイメージしかありませんでしたが、クレームを受けることで、教師や学校全体の問題点がうき彫りになり、改善につなげていくきっかけにもなるのだと感じました。学校全体でチームとして対応していくことが何よりも大切だと感じました。
- ④保護者の方との関係は、教師を目指す上でとても不安に思っていることだったので、今日この話を聞いて勉強になりました。「こういうことを言えばいい」と理論で覚えるのではなく、謙虚な姿勢で関わりを持っていきたいです。
- ⑤実習をおえて、はじめて、この講座に参加し、実習に加えて、どうしていけば、子どもたちをひきつける、子どもたちがががやく学級づくりができるのかを知ることができてよかった。ぜひ、実践したいと思える実践例も紹介していただいて、より、教師になれる日、学級をもてる日が楽しみになりました。
- ⑤先生の丁寧な指導が子どもを変えろという場面をいくつも見させていただいて勉強になりました。学級経営はもちろん不安ですが、楽しみになりました。
- ⑤「理屈は言わない」とははじめにおっしゃった意味がよく分かりました。人と人がつながる 人間として大切なことを教えられる場であると学校の大切さを改めて感じました。先生が話されると、胸の奥がぐーっとあたたくなくなっていきました。4月から教師、がんばります。
- ⑤インターンシップ等で私自身が上手くいかないなと思っていることについて先生のお考えが聞けて、少し見通しがもてたように思いました。4月から教壇に立つことを考えると、不安で仕方がなかったのですが、しなくてはいけないこと、考えておきたいことを持つことができたので頑張りたいです。
- ⑥子どもにとっておもしろい授業をするために、まず自分が教材の魅力を感じ取ってそれを伝えていきたいと感じた。\*\*先生のように楽しんで教材研究をできたらいいなと思いました。
- ⑥授業するために、教師自身が魅力を感じることで、子どもに何を学ばせたいのかしっかり目的意識をもって、つくっていくことの必要性を学んだ。小野先生の楽しさが伝わってきて、すごく楽しかったので、私も、そんな風に授業の、学びの楽しさを伝えられる教師になりたいと思った。
- ⑥学級経営と授業作りは別々に考えているところが

ありました。しかし、今回の講座で、授業を通して学級経営並びに生徒指導をしているという考え方にすごく刺激を受けました。今回の講座によって考えさせられたことを踏まえた授業作りに取り組んでいきたいと思います。

受講した学生がこの講座を通して、教師の在り方や指導の方法について多くのことを学び、自分自身の教職に対する意識を高めていることが窺える。特に、この講座のねらいの中核になる「学生の不安感の軽減」と「実践的指導力の育成」に関わる感想については、このほかにもたくさん表現されていた。基調提案で提示された新たな視点や中心になる指導法と、グループ討議で出会う多様な考えとが、それぞれの学生がもっている課題に対する具体的な答えを導き出しているようである。講座を通して教壇に立ちたいという思いを新たにすることが窺える言葉を、ここに紹介しておく。

- 自分の目指す教員像が豊かになった。
- 子どもにぶつかっていける教師になりたい。
- 教員を目指そうという気持ちがより強くなりました。
- 私も先生のように熱い先生になりたいと思った。
- 心に余裕のある、体罰に頼らない教員になりたい。
- 今日の学びをいかして、教師になってがんばりたいと思います。
- いじめられてる子の心を大切にできる先生になりたいです。
- 採用試験時のモチベーションをまた取り戻すことができました。来年に向けての準備を自分なりに進めていこうと思います。
- たくさんの引き出しと子どもの姿をみせて頂いて春からの教員生活により魅力を感じました。
- 現場に出たときにしっかり実践できるよう努力していきたいです。
- 一人ひとりの顔が輝く、みんなで一緒に輝けるが学級づくりを目指したいと思います。
- 「このクラスで良かった」と子どもたちが思えるような学級づくりを目指して頑張りたいと思います。
- 感動体験を沢山子どもに与えたいです。
- まず一人一人の存在を認められる教員になるべく精進したいと思います。
- 子どもに語らせる授業を目指して4月からがんばろうと思います。



IV 受講生の所属

表4 (年度別学生の所属一覧表)

2013 年度

所属	学校教育教員養成課程				養護教諭養成課程	教育学研究科	特別別科特別専攻科*	他学部									合計
	小学校	中学校	特別支援	卒業生				理学部	工学部	環境理工学部	マッチングプログラムコース	文学部	自然科学博士前期理学系	自然科学博士前期工学系	環境生命科学研究科	他学部合計	
(1)	50	27	8	0	16	10	0	3	0	0	1	3	1	0	0	8	119
(2)	30	10	2	1	2	3	0	3	0	0	0	3	1	0	0	7	55
(3)	25	15	2	0	14	4	1	1	0	0	0	4	1	1	0	7	68
(4)	29	12	8	0	13	4	0	1	1	0	0	1	2	0	1	6	72
(5)	20	3	1	0	1	2	0	0	1	0	0	1	0	0	1	3	30
(6)	38	2	2	0	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	1	48	
合計	192	69	23	1	47	26	1	8	2	0	1	13	5	1	3	32	392
%	49.0	17.6	5.9	0.3	12.0	6.6	0.3	2.0	0.5	-	0.3	3.3	1.3	0.3	0.8	8.4	100

\* 特別別科＝養護教諭特別別科, 特別専攻科＝特別支援教育特別専攻科

2012 年度

所属	学校教育教員養成課程				養護教諭養成課程	教育学研究科	特別別科特別専攻科*	他学部									合計
	小学校	中学校	障害児	幼児教育				理学部	農学部	工学部	環境理工学部	マッチングプログラムコース	文学部	自然科学博士前期理学系	社会文化科学研究科	他学部合計	
(1)	4	4	2	0	1	7	0	2	0	0	0	0	1	1	1	5	23
(2)	19	4	1	0	2	3	0	2	0	0	0	0	2	0	0	4	33
(3)	17	1	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3	1	0	6	26
(4)	5	8	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	1	0	5	18
(5)	12	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	18
合計	57	18	5	0	4	11	1	9	0	0	0	0	8	4	1	22	118
%	48.3	15.3	4.2	-	3.4	9.3	0.8	7.6	-	-	-	-	6.8	3.4	0.8	18.6	100

2011 年度

所属	学校教育教員養成課程				養護教諭養成課程	教育学研究科	特別別科特別専攻科*	他学部									合計
	小学校	中学校	障害児	幼児教育				理学部	農学部	工学部	環境理工学部	マッチングプログラムコース	文学部	自然科学博士前期理学系	社会文化科学研究科	他学部合計	
(1)	18	5	3	0	0	2	0	13	0	0	0	0	1	0	0	14	42
(2)	8	6	5	0	0	4	0	6	0	0	0	0	0	0	0	6	29
(3)	12	10	7	0	0	3	0	7	1	0	0	0	0	0	0	8	40
(4)	16	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	1	0	0	5	25
(5)	7	1	4	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	4	18
(6)	12	4	3	0	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	4	25
合計	73	30	22	2	2	9	0	33	1	0	0	0	7	0	0	41	179
%	40.8	16.8	12.3	1.1	1.1	5	-	18.4	0.6	-	-	-	3.9	-	-	22.9	100

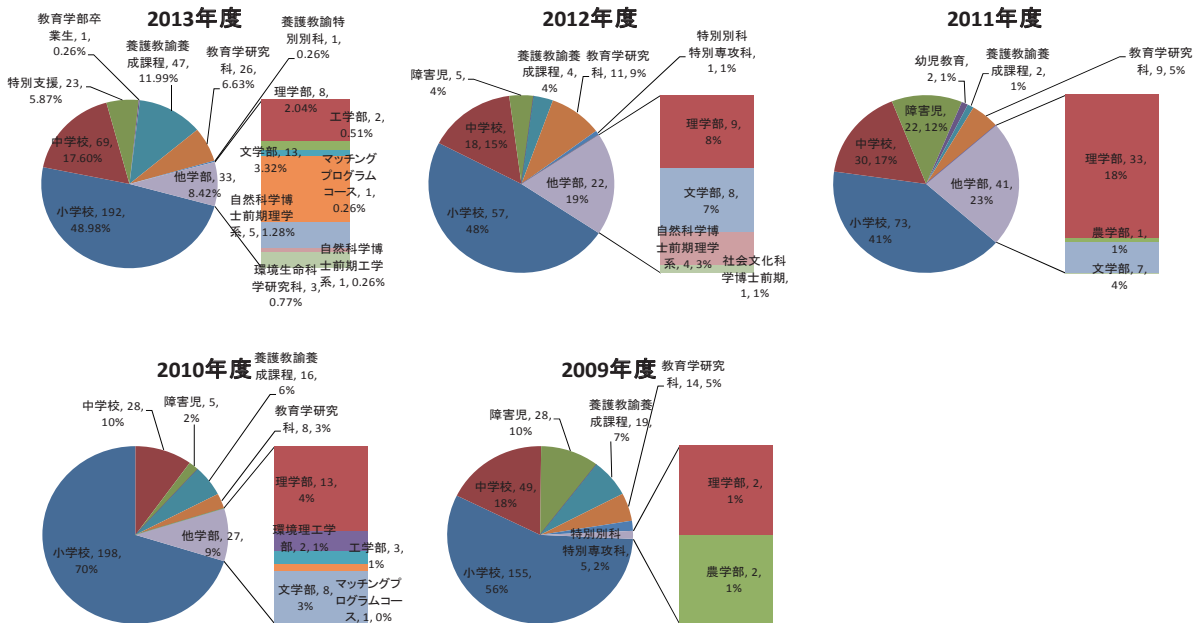
2010 年度

所属	学校教育教員養成課程				養護教諭養成課程	教育学研究科	特別別科特別専攻科*	他学部									合計
	小学校	中学校	障害児	幼児教育				理学部	農学部	工学部	環境理工学部	マッチングプログラムコース	文学部	自然科学博士前期理学系	社会文化科学研究科	他学部合計	
(1)	44	11	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2	0	0	4	60
(2)	51	1	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	58
(3)	25	2	0	0	0	3	0	2	0	0	1	0	2	0	0	5	35
(4)	19	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3	0	0	4	24
(5)	17	3	0	0	0	0	0	8	0	3	0	0	0	0	0	11	31
(6)	42	11	3	0	16	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	74
合計	198	28	5	0	16	8	0	13	0	3	2	1	8	0	0	27	282
%	70.2	9.9	1.8	-	5.7	2.8	-	4.6	-	1.1	0.7	0.4	2.8	-	-	9.6	100

2009 年度

所属	学校教育教員養成課程				養護教諭養成課程	教育学研究科	特別別科特別専攻科*	他学部									合計
	小学校	中学校	障害児	幼児教育				理学部	農学部	工学部	環境理工学部	マッチングプログラムコース	文学部	自然科学博士前期理学系	社会文化科学研究科	他学部合計	
(1)	16	5	7	0	0	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	36
(2)	48	3	8	0	4	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	68
(3)	47	15	6	0	3	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	76
(4)	14	7	3	0	6	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
(5)	8	13	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
(6)	22	6	3	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37
合計	155	49	28	0	19	14	5	2	2	0	0	0	0	0	0	4	274
%	56.6	17.9	10.2	-	6.9	5.1	1.8	-	-	-	-	-	-	-	-	1.5	100

受講者の内訳グラフ (年度比較)



受講生の総数を見ると、6回の合計で392人となり、これまでの5年で最も多くなっている。学生が大きな不安感を抱いていると思われる「体罰」「いじめ・不登校」「保護者のクレーム」を講座のテーマとして取り上げたこと、4年生の学生が参加しやすい日程を設定したことなどが一因と考える。

受講生の所属を見ると、教育学部の中学校教員養成課程と養護教員養成課の学生の受講が、大きく増加している。他学部については、文学部の学生の受講が増えている一方で、理学部の学生の受講が減少傾向にある。

V. まとめ

学生のニーズに合わせたテーマ設定、開催日時などの工夫、講座の内容に合わせた運営の柔軟化などの効果で、学生の満足度は高いものとなった。アンケートからも、学生同士のグループ討議で考えを深めることができたこと、学生自身が考えているより難しい学校現場の現実があることなどを、受講した学生が実感していることが窺える。中でも、本講座がねらいとして取り組んでいる「学生の不安感の軽減」には、確かな手応えを感じている。

VI. 今後の課題

充実した講座ができたという振り返りと共に、次年度に向けて改善を図っていくべき点も幾つか見えてきている。

○他学部生の受講の増加を図る。

他学部の受講生は33名で昨年より増えたが、さらなる増加を図りたい。他学部生は、4回生の1学期が実習の期間となる。本年度は教員採用試験前となる7月までに4講座を開催したが、実習期間との日程調整の工夫も求められている。しかし、教育学部以外の学部の日程まで考慮した開催は難しい。講師依頼や副実習との兼ね合いもあるが、今後とも十分に考えて計画していきたい。

○開催時期による広報の仕方を工夫

「この講座を何で知ったか」という設問に対する回答は次の通りである。(1～6回の合計)

- ・教育学部掲示板で 90
- ・教育学以外の掲示板で 4
- ・教職相談室の情報で 152
- ・センターホームページで 6
- ・岡大教職ナビで 64
- ・友人から 31

これを見ると、教職相談室での直接案内が大きな役

割を果たしている。12月に開催した5,6回については、教育学部学内掲示板での掲示も同様に進めてきたが、大学に来る機会が減少した4年生への広報が難しかった。また、3年生も直前まで教育実習があった。その時期に合った広報の仕方の工夫が必要である。

○講座のテーマの選定内容の工夫

「学級づくり」や「授業づくり」の講座では、教師への意欲の高まりを感じるアンケートの回答が多くなっている。具体的な指導の仕方を描くことができること、その指導を教育現場で実践して成果を上げている教員がいることが、学生の意欲につながっているものとする。一方、学校現場で直面する困難な教育課題は、学生の課題でもある。学生の不安を取り除くために今後も取り上げていきたい。

本年度受講者のアンケートや相談室を利用する学生の声などを手がかりとしながら、学生のニーズを十分に踏まえた上で、教師力の育成という点からテーマを設定していきたい。

する形で本年度の教師力養成講座を開催した。この講座を通して、学生は学校現場で活躍している教員の姿や熱い思いに触れ、教育現場を想定した具体的な指導を学ぶことができています。それと同時に、「自分が教師になったらこうしたい」「こんな教師になりたい」という思いを創り上げ、教師としての自覚や使命感を高めている。そのことは、即戦力となる教師力を身につけた教員に近づいていくことでもある。教師を目指している学生の中には、この講座を受講できなかった学生もたくさんいる。そんな学生には、講師の先生のご厚意により作成することができたDVDを、ぜひ教職相談室で視聴してもらいたい。その際、相談室のスタッフが加わって、講座の熱気も伝えたいと考えています。

本年度も、この講座を7回に渡って開催することができたのは、加賀研究学科長、教師教育開発センターの諸先生方、事務局スタッフの方々のご助言とご協力のおかげであり、心から感謝申し上げます。

## Ⅶ. 終わりに

4年間の本講座の実績の上に立って、それを継承

---

Title : Development of “A Training Course to Cultivate the Abilities Required for Teachers (5)  
a Program to Bring on Teachers with a High Degree of Specialization and Practical Leadership  
Subtitle : To Cultivate the Practical Leadership Required for Teachers

Mikio BUTO\*1, Kiyoshi OGAWA \*1, Seitaro KOBAYASHI \*1

(Abstracts) On this extracurricular course, “A training course to cultivate the abilities required for teachers”, we focused on seven themes this school year. The latest is the 30th of all that we have organized since 2009.

Even those who had passed the teaching staff examination heighten their fears to be a teacher by the news about class disruption, bullying at school, truancy, and the other problems worrying teachers. They have consciousness of their lack of experience and their leadership. We hope that this course will turn out competent new teachers and that they will meet the needs of the present severe conditions. The course has been aimed at giving those students more practical information and advice considering various conditions, and developing their practical leadership skills and letting them have a lot of self-confidence. This report is the detail on the basis of the students’ feedback about the theme in the 1<sup>st</sup> to the 6<sup>th</sup> this school year.

Keywords: teacher competence , practical leadership skills , educational issues ,  
a schoolteacher actively engaged in teaching , student discussion

\*1 Center for Teacher Education and Development, Okayama University

---